

2011 年度特定共同研究申請書

1.応募領域（丸を付けてください） 古代史料領域 <input type="radio"/> 中世史料領域 <input type="radio"/> 近世史料領域 <input type="radio"/> 海外史料領域 <input type="radio"/> 複合史料領域
2.申請課題名 春日大社所蔵「大東文書」の調査・撮影
3 新規・継続の別（丸をつけてください） 新規 <input type="radio"/> 継続 <input type="radio"/>
4.申請者 古代史料部門・助教・藤原重雄
5.所内共同研究者 中世史料部門・准教授・末柄豊 史料保存技術室・技術専門職員（写真）・谷昭佳 同 <input type="checkbox"/> 技術職員（写真）・高山さやか
6.希望する研究期間 2010 年度～2011 年度（2 年間）
7.課題の概要(400 字程度)（この項は広報等に利用・掲載することがあります） 近年春日大社に寄贈された「大東文書」を撮影し、一点目録を作成する。この文書群は、春日社旧社家の有力三家のうちの大東家が所蔵していたもので、平安時代～江戸時代の古文書約 300 点からなり、慶長以前のもものが過半を占める。これら全点をデジタル撮影して史料編纂所図書室において公開するとともに、詳細な目録を採取して公刊し、「日本古文書ユニオンカタログ」にも書誌データを登録する。中世古文書原本の新規撮影・目録作成とその公開をリレーショナルに展開する実験としての性格も備える。さらに、春日大社等に所蔵される大東家伝来の記録類と、その作成・整理の過程に関する見通しをつかむ。
8.研究の目的(400 字程度) 「大東文書」には、社家大東家に伝来した文書に加え、廃仏毀釈の際などに入った興福寺関係文書が多く含まれる。春日大社所蔵の「春日大社文書」も、明治期以降に各旧社家から寄贈された伝来文書や興福寺旧蔵文書がほとんどを占め、本来「大東文書」とは一体的な関係にあった。「大東文書」が春日大社に寄贈されたことにより、興福寺・春日社関係文書の総合的研究を進める条件が向上した。基礎的な環境整備として、2010 年度には全点の写真撮影を終え、調書の作成を進めてきたところである。2011 年度は、目録を公刊するとともに、院政期～室町期の若干の新出文書と年代記を翻刻紹介する。また史料編纂所図書室において、デジタルでのカラー画像を公開し、目録情報もデータベースに登載するための準備を整える。史料編纂所では、分散著しい興福寺・春日社関係文書を集中的に閲覧しやすい環境にあり、いっそうの研究の進展に寄与する。
9.共同利用・共同研究として進める意義と期待される研究成果(400 字程度) 近年新たに春日大社の所蔵となった文書群であり、共同研究として調査研究を進めるこ

とにより、所蔵者側の管理体系と一体的な目録の作成が可能である。すでに大部分は一度（戦前の『春日神社文書』三）、中世分は二度（加えて戦後の『春日大社文書』六）にわたり翻刻されているが、両者の文書番号は同一でなく、いささか錯綜している。とりわけ両翻刻とも、一連の案文や連券を一通ごとに分割して全てを単一文書として年代順に配列する方針を採っており、モノとしての形態とは対応関係が分かりにくく、現在の史料学的な検討には不明瞭な点もまま存在する。内容的に文化財指定の際の文書目録に近い書誌データを採取しておくことで、将来の保存に対する備えともなる。また、所蔵者・現地側の主体的な関与により、史料編纂所とは別途、奈良地域における目録・写真の公開を通じて、地域史史料としての活用を促進することができる。さらに、春日大社や大東家に所蔵される大東家歴代の記録群の調査研究へと進展することも期待される。

10. 研究の実施計画

【2010 年度】

9 月：春日大社へ出張して文書の撮影を終了し、調書の作成を進めている。
目録や翻刻の入力、関連史料の調査収集を進めている。

【2011 年度】

9 月：春日大社にて調査。調書を作成するとともに、内容的な適切さを点検し、統一などを図る。旧社家所蔵の文書・記録等の調査・撮影・研究を行う。
(奈良・東京出張費)

12 月～2012 年 3 月頃：

一点目録を公刊する。画像ないし写真焼付を史料編纂所図書室にて公開する。
一点ごとの書誌データを「日本古文書ユニオンカタログ」に登録・公開する。
(目録編集費用、データ整形・登録補助謝金)

計画中：

奈良地域においても同じく、閲覧公開が可能となる環境を整える。

11. 研究成果の公開計画

『春日大社所蔵「大東文書」目録』（仮称）を刊行。
書誌データを「日本古文書ユニオンカタログ」でインターネット公開。
文書画像ないし写真焼付を史料編纂所図書室にて閲覧に供する。
(奈良地域での公開については検討中。)

12. 共同研究員にもとめる役割

寺社所蔵史料の調査・撮影、目録調書作成・管理等を共同で行なう。史料や目録等の適切な公開・展示の方法についても、あわせて検討する。
南都地域史について研究実績（特に中世後期～近世）に基づき、共同で調査研究を行なう。